



横手やきそばチャンピオンズカーニバルでのボランティア活動について

地域文化学科 1 年次 小田嶋来輝

地域文化学科の1年次必修授業「地域学基礎」の授業の一環で、10月18日(日)に秋田ふるさと村(横手市)で開催された「横手やきそばチャンピオンズカーニバル」に参加し、ボランティア活動を行いました。以下、チームメンバー8名が行った活動について紹介するとともに、ボランティア活動を通して学んだことについて述べたいと思います。

まず横手やきそばチャンピオンズカーニバルについて紹介したいと思います。例年秋に「横手やきそば四天王決定戦」という、一般客の投票によって四天王を選ぶイベントが行われていましたが、今年は新型コロナウイルスの流行に伴い中止となりました。今回のイベントは、それらに代わり歴代横手やきそば四天王5店舗が各店自慢の横手やきそばを提供し、テイクアウト形式での販売となりました。当日は感染症予防に最大限配慮した形で行われ、横手やきそばを待ちわびていた多くのファンで賑わいました。

次に、イベントでの私たちの活動について紹介します。まず、10月16日に会場設営を行いました。テント張りや椅子・テーブルの清掃から食事会場の設営まで幅広く手伝わさせていただきました。

く機会があり、私自身も3店舗のやきそばをいただきましたが、どのお店も味や見た目にこだわりと工夫を感じ、改めて横手やきそばの魅力に触れることができました。イベント全体を通して学生一人一人が積極的に活動し、滞りなくイベントを終えることができました。



今回の活動を通して、イベント運営の大変さや地元の皆さんの横手やきそばに対する熱い思いを改めて知るとともに、私たちが目的としている「横手やきそばを通して地域活性化とは何かを考える」ことについて深く学ぶことができました。特に横手やきそばの店主の方々、市役所職員の方々、NPOの方々、ボランティアの方々が、「横手やきそばをただ単に販売することではなく、横手やきそばを通じて横手市をよく知ってもらおうこと」を第1に心がけて行動されている姿が大変印象的でした。今回私たちが行なったボランティア活動は地域活性化という大きな活動のほんの一部でしたが、横手市の発展のために何ができるのか一人一人が深く考え、実際に行動したまたとない機会になりました。最後になりますが、私たちチーム横手やきそばはInstagram「yokoteyakisoba0902」を通して横手やきそばの魅力を発信しています。ぜひ、応援していただけると嬉しいです。

写真は「四天王」のメニューです。平日は異なる場合があります。

10月18日
10:00~15:00
会場 秋田ふるさと村【お祭り広場】

販売券 2,000円
10月17日(土) 10:00~17:00
10月18日(日) 10:00~17:00
※販売終了後、残りの券は有効です。

【重要】
ご来場の前には
●会場がすぐ代わりの場合は来店をお断りください。
●会場には必ず2つの検温ポイントがあります。
●秋田ふるさと村の正門入口で検温を実施しています。
●37.5度以上の発熱がある場合は、入場をお断りいたします。

【主催】横手やきそば四天王決定戦実行委員会
【後援】横手市

また、10月18日イベント当日は、商品運びや商品まとめ、受け渡しを担当しました。私たちが制作した200個の横手やきそば広報バッチも全てなくなる盛況ぶりでした。昼休みには実際に横手やきそばをいただ

教職大学院東成瀬村・美郷町研修旅行

教職大学院では、2016年の発足以来、毎年、宮城または岩手の被災地を訪れ、学校訪問や、現地の教職大学院との交流、震災遺構の訪問などを2泊3日で行っているのですが、新型コロナの影響もあり、1泊2日に短縮するとともに、行き先を県内としました。

東成瀬村は学力の高さが有名ですが、それにとどまらない豊かな教育実践が行われています。また、防災学習、地域学習も兼ねて美郷町周辺を巡りました。さまざまな取り組みが行われています。参加者は、現職教員院生9名、学部卒院生11名、付添教員4名でした。2日目は林信太郎先生に案内・説明等をお願いしました。30日の方はかなり寒く、冷たい雨が降っていて、野外活動にはあいにくの日和でした。

【第1日】10月29日（木）

- 8:10 秋田大学正門集合
- 8:30 秋田大学出発（バス）一十文字道の駅
- 10:20 東成瀬村役場着
- 10:30 鶴飼孝東成瀬村教育長講話
- 12:00 昼食（弁当）
- 13:00 加藤久夫東成瀬小学校長・大沼一義東成瀬中学校長学校説明
- 15:00 東成瀬村役場出発
- 15:30 増田まんが美術館
- 16:20 一十文字道の駅
- 17:00 横手セントラルホテル着
- 18:00 ホテルで夕食

【第2日】10月30日（金）

- 8:30 ホテル出発
- 9:00 道の駅美郷（道の駅仙南）
自家用車参加（林信太郎先生も）の人と合流・全員バスへ
- 9:20 払田柵跡見学
- 9:50 埋蔵文化財センター
特別企画展「あきた縄文石器への旅」
- 10:40 千屋断層
- 11:45 千屋断層学習館
- 12:00 坂本東嶽邸（昼食）
- 12:50 坂本邸出発
- 13:10 六郷湧水群

【徒歩】：ニテコ清水→藤清水→諏訪清水→山田家清水→御台所清水→ハタチや清水

- 14:20 名水市場湧太郎でバス乗車
栗林酒造をバスの中から見学
- 14:30 道の駅美郷
自家用車参加の人解散
- 15:50 秋田大学到着・解散



鶴飼教育長の講話（前方左）

カリキュラム・授業開発コース 小野彰斗

研修旅行を通して印象に残ったことを挙げる。

1つ目は、教育は人が命であり、その人を作るのは環境であるということだ。東成瀬小、中学校の校長の話、教育長の話聞いて、自分も力を発揮して子どもたちのためになる教育をしたいと強く思った。人は周りの環境に大きく影響を受けるものである。周りの人の意識や力が高くなれば自然と意識や力も高くなる。そのような環境をどうやって作るのか考えていきたいと感じた。

2つ目は、その土地でしかできない教育があるということだ。東成瀬村の教育は自分たちがいる環境を最大限生かす工夫が大いになされていたように思う。それぞれの地域でそれぞれの場所ではできないような教育がなされることはこれからの教育の中でとても重要な観点だと思う。私が教師として働くときには、地域の良さを最大限生かせるように意識していきたい。

3つ目は学びはつながるということだ。今回の研修旅行での学びは単独のものではなく、いろいろなものにつながっていると実感した。今回私が感じたような、つながりを感じられる学びを子どもたちができるよう、教育に携わっていきたい。



加藤小学校長・大沼中学校長の講話



東成瀬村役場会議室



払田柵跡

カリキュラム・授業開発コース 伊藤 真里奈
今回の研修は、地元である県南のよさを再発見できるいい機会であった。研修を行った美郷町で横手市と共通している横手盆地が話題になったことから、地元の教育資源として生かすことができる素材集めをすることができ、大変充実していた。

東成瀬村には小学生の頃ジュネス栗駒にスキーをするために行ったことがある程度だったが、今回はちょうど紅葉が綺麗だったり、雲を近く感じることができたりして、自然の恵みを受けてのびのびと育つことができる東成瀬村の子どもたちがとてもうらやましく思えた。また、教育長の先生や校長先生は熱意にあふれており、これまで大学院で理論として学んできた理想に近いことを既に実践し、発信できているところに感銘を受け、学び続ける教師の手本であると感じた。

また、様々な自然や歴史を感じることができる箇所を見学し、林先生がおっしゃっていた「実際に歩いてみるのが大事」という意味が分かった。考えるだけでなく、行動に移してみたり、試してみたりする探究心をいつまでも忘れないようにしたいと思う。



カリキュラム・授業開発コース 清水 里沙
今回の活動を地域資源の観点で振り返ると、秋田県には気付いていない貴重な資源が多くあることを知ることができたように思う。とくに東成瀬村はこのような機会がなければじっくりと話を聞いたり見たりすることはなかったのので、地域から愛されている子どもたちや学校というものを目で見て、携わる人々の努力を感じ取ることができた。東成瀬村そのものが貴重な教育資源であるとも思えた。

また、2日目のフィールドワークでは、文化財、断層、湧水群といったさまざまな分野の資源について見学を行い、広い視野で秋田県を見つめ直すことができたように感じる。今回の活動をきっかけに、現場に出るまでなるべく秋田県を多面的・多角的に見て(訪れて)、魅力に気付くことを積極的に行っていきたいと考えている。全体を通して今回の活動の印象としては「温故知新」という言葉が当てはまるものであったと感じた。



埋蔵文化財センター



千屋断層（陸羽地震 1896 年）



坂本東嶽邸

カリキュラム・授業開発コース 三保 翔

今回の研修旅行では東成瀬村の教育についてかなり学ぶところが多かった。実際の授業を見てみたいという気持ちが大きかったため、見るができなかったのは残念ではある。東成瀬村では、村だからできる教育を地域と共に行なっているとのことであった。教員が子供たち一人一人にきめ細やかな指導をするのは難しいということで、地域ボランティアの 200 人に協力してもらっていたり、こども議会を行っていたりと地域との関わりやふるさとへの思いをかなり重視していると感じた。地域でのイベントでは 95%の村の人が集まることや、地域の方々との連携で教育を行なっていることなど「地域に根差したキャリア教育」というものを感じることができたと思う。また、千屋断層や、埋蔵文化センター、六郷湧水群では普段あまり見ることができない秋田の良さを知ることができたと思う。秋田市にはない良さが多くあり、秋田県が誇るものではなく、秋田市が秋田県内で誇れるものを考えてくのも故郷教育ではいいのではないかなと感じる。フィールドワークにもつなげていきたい。



六郷湧水群



増田まんが美術館

オータム・キャンプ2020を実施

キャリア委員会の主催で、オータムキャンプ2020を、11月14日(土)と28日(土)の2回に分けて、3号館344教室で実施しました。例年であれば、ユースパルで一泊二日で実施しているのですが、今年は新型コロナの影響で変則的な実施となりました。今年4月にやるはずだったスプリング・キャンプは実施できないままとなりました。参加学生は19名と、例年に比べて少なくなりました。参加教職員は14名で、事務から2名が参加しました。2日目は、さらに浅野雛、大堤光、木村純樹、村岡孝義、加藤礼奈、鈴木佑理、本庄舞の7名の先輩学生が参加しました。

このキャンプは、卒業後に社会に貢献しようと決意している学生・院生が、講義や演習、4年生からの体験談などを通して、教員となることの意味や意義について検討し、教員となる上での自己の課題の発見と今後の大学生活を送る上で見通しを持つことを目的としています。

内容は、これからの教育の姿や目指すべき教員像などについての講話、講義や演習などを行います。主に教員を目指す3年生、大学院生を対象とするため、意欲向上を目指した基礎的な内容を中心とします。今夏の教員採用試験体験者が学生ボランティアとして参加することで、参加学生の意欲や学習効果のさらなる向上を図るものとなっています。日程は以下のようなものでした。

【1日目】11月14日

- 13:00 開講式
- 13:20 アイスブレイキング
- 13:30 なぜ教職を目指すか
- 14:50 求められる教師像(グループ協議、面接体験)
- 16:30 個別相談

【2日目】11月28日

- 9:00 模擬授業演示、グループ協議
- 11:30 昼食
- 12:30 先輩から話を聞こう
- 14:10 閉講式
- 14:30 終了



4年次の先輩：学生スタッフ



先輩の模擬授業

【研究紹介】

研究の視点で見る臨床心理士の実務

心理実践コース担当 木村 久仁子

私は、今年の3月まで秋田県庁の職員として、児童相談所、健康福祉センター、精神保健福祉センター、リハビリテーション・精神医療センター、千秋学園、地域振興局福祉環境部などで勤務してきました。児童虐待やひきこもり、発達障害、災害ストレスなど、さまざまな課題について、臨床心理学をベースにして毎日心理面接や検査を行ってきました。そのため、他の先生方のように、たくさんの文献やデータに囲まれたり、実験装置をそろえたり、あるいは現地に赴いたりといった、いわゆる研究らしい研究はこれまで経験がありません。

研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日 文部科学大臣決定）によると、「研究活動とは、先人達が行った研究の諸業績を踏まえた上で、観察や実験等によって知り得た事実やデータを素材としつつ、自分自身の省察・発想・アイディア等に基づく新たな知見を創造し、知の体系を構築していく行為である。」とされています。

この定義から、これまで自分がしてきた実務を研究という視点で振り返ってみたいと思います。

1. 先人達が行った研究の諸業績

官公庁は「前例主義」と言われます。批判の対象になりがちですが、前例は先人達の知恵の集まった業績でもあります。

例えば、私は児童相談所に勤務していたころ、各地域に出張して主に幼児の発達の相談に対応する「巡回相談」を担当していました。巡回相談では、限られた時間内で、その地域の子どもたちの相談を複数受けなければなりません。誰がどうやって相談予約を受け付けるのか、保護者がゆっくり相談できる環境をどう整えるのか、その間子どもを飽きさせずに待ってもらうにはどうすればいいのか、その答えの多くは、古いキャビネットに並べられたファイルの中がありました。

2. 観察や実験等によって知り得た事実やデータ

もちろん、子どもは一人ひとり違います。ファイルにある「落ち着きのない3歳の男の子」への

対応は、今、目の前にいる子どもにはそのまま当てはまりません。声をかけたりおもちゃを渡してみたり、お母さんから普段の様子を教えてもらったりしながら、その子の困りごとの解決に役立つような情報を集めます。また、客観的に子どもを理解するために心理検査を実施することもあります。心理検査がその機能を発揮するためには、マニュアルに沿った正確な実施が必要です。

3. 自分自身の省察・発想・アイディア等に基づく新たな知見

その場で得られた情報と子どもの発達に関する一般的な理論、修正が必要な行動へのアプローチの仕方、利用できる地域資源などを統合して、最も適切と思われる助言を行います。

子どもとの面接の後には、他のスタッフとのカンファレンスがあり、保護者が助言をどう受け止めていたか、今後必要なサポートは何か等を検討します。

4. 知の体系を構築していく

出張から帰る車の中では、もっとわかりやすい説明の仕方はなかったか、検査の手順はあれでよかったかなど、次回の相談に使えるよりよい方法を考えていました。また、相談記録を作成し、上司や同僚に報告すると、自分の対応への意見や感想、新たな情報をもらうこともありました。

こんな風に考えると、毎日が小さな研究でした。もっとじっくりと一つのリサーチクエスチョンに向き合いたかったとの思いもありますが、日々新たな「問題と目的」が現れるのが現場です。何とか「結果」までは出したけれど、考察は書きかけのまま次の研究に取りかからざるを得ない・・・

そんな現場で相談者への支援に当たる人達が、どうすればもっと支援しやすくなるかを考え、支援者を支援すること、それが現在の私の研究テーマです。これまでとは少し違った視点と手法で、心の問題に取り組んでいきたいと思っています。



【研究紹介】

数学的な見方・考え方を生かした算数・数学の教材と授業デザインに関する研究

理数教育コース担当 加藤 慎一

私は、主体的・対話的で深い学びという授業改善の視点を基軸にして、算数・数学教育における豊かな学びを具現するために必要となる数学的な見方・考え方を生かした教材と授業デザインについて、理論と実践の往還を大切にしながら研究を行ってきています。具体的には、次の3つの観点から行っています。

1. 算数・数学教育における関数指導に関する検討

児童生徒が、関係という目にみえないものを捉えるという関数指導における困難を克服するために、児童生徒が、日常生活や社会の事象をいかに考察する場面を設定することが必要か、また関係という目にみえないものを児童生徒がいかに捉え明らかにしていくかに関わって、教師の役割の検討を行っています。

2. 対話のある算数・数学の授業づくりに関する検討

児童生徒が主体的・対話的に数学する機会を創ることによって、児童生徒における学びの質が深まり、能動的、協働的、構成的な学びになると考え、その検討を行ってきています。

また、聴覚に障害がある児童生徒を対象として、音・音声情報の受容や表出に生じる困難を克服することについての検討も行っています。

3. 算数・数学の授業過程における ICT を活用した指導法に関する検討

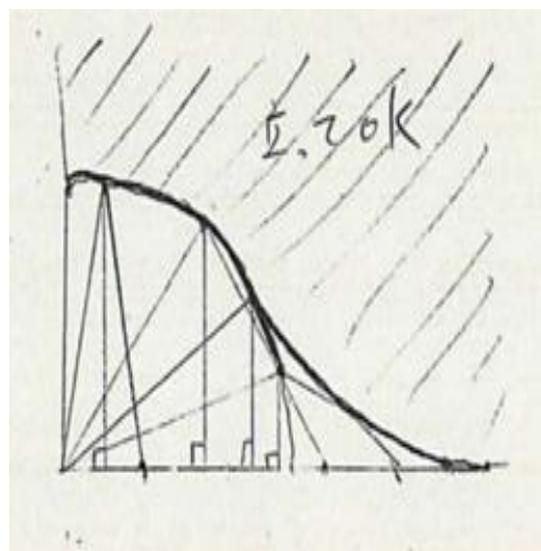
算数・数学の授業過程において、ICTの効果的な活用が、児童生徒が事象を考察する場面や関係を捉え明らかにすること、児童生徒の能動的、協働的、構成的な学びを支援すること、音・音声情報の受容や表出に生じる困難の克服を支援することなど、1と2の観点の授業改善に有効であると考え、その検討を行ってきています。

また、教科の学びをより確実なものにするための小学校算数科におけるプログラミング教育の系統的かつ効果的な実践に向けた教材の検討を行ってきています。

上述した研究は、小・中・高等学校、特別支援学校（聴覚障害）の児童生徒を対象として、児童生徒の学びの事実を照らして行っています。

さらに、2018年度からは、大学における教員養成・教師教育の視点から上述の研究を深めてきています。

今後、先生方や附属学校をはじめ、小・中・高等学校、特別支援学校の先生方にご指導、お力添えを賜りながら、上述した研究を継続・発展させていきたいと思っております。



バスの扉の開閉を関数として捉え考察する生徒

新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み

*一部不明・不正確な箇所があります

【全国】

- 11/18：全国で2200となり2000人台となる。
- 11/19：東京で534人となり500人台となる。
- 11/21：政府はGo To トラベル・イートの見直し決定。
- 11/24：札幌市と大阪市を目的地とする旅行の割引を12/15までの3週間、割引を停止。

【秋田大学】

- 11/19：帰省後の感染防止のため来年1/7から1/20まで全授業を遠隔とすることを通知。



みなもと 11月号で紹介した対馬達雄先生の近刊著書『ヒトラーの脱走兵』について、web中公新書の「著者に聞く」のコーナーで対馬先生のインタビュー記事が載っていますのでご覧ください。

<http://www.chuko.co.jp/shinsho/portal/115929.html>

同じように佐藤猛先生の『百年戦争 中世ヨーロッパ最後の戦い』に関する著者インタビューも掲載されていますのでご覧ください。

<http://www.chuko.co.jp/shinsho/portal/114369.html>

発行 秋田大学教育文化学部／教育学研究科

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなもと」バックナンバー⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html

教職大学院通信「暁鐘の音(かねのね)」⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html

* 誌名「みなもと」の由来である秋田県女子師範学校校歌(1910年制作)を聴くことができます。

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html をご覧下さい。